



にじ

vol.9

JA北海道厚生連
遠軽厚生病院
遠軽町大通北3丁目
tel (0158) 42-4101

平成 22 年 3 月

Rainbow

平成21年度の 遠軽厚生病院を振り返って

JA北海道厚生連 遠軽厚生病院
事務部長 園 木 勇 司



今年度を振り返り、平成22年度に向け一言ご挨拶を申しあげます。
私は昨年の4月に遠軽厚生病院の事務部長として赴任し、前職場は本部・医療部という厚生連全体の病院運営と経営管理を行う部署で勤務してまいりました。その業務の中でも平成21年度から標準的で透明性のある急性期病院の象徴である「DPC対象病院（入院医療費の包括支払制度）」を本会の6総合病院に導入する準備に約3年間携わり、導入と同時に現場での実戦部隊となりスタートしました。
赴任後、院内の体制が把握できない中で、GWを目前に世界中を震撼させた「新型コロナウイルス」の日本上陸に立ち向かうこととなり、院内に緊急対策本部を立ち上げ、プレハブの発熱外来設置や患者誘導のシミュレーション、マスク報道、マスク確保の対応と混乱の渦に巻き込まれていったのであります。

さらに、遠紋地区で感染病床を持っているのは道立紋別病院ですが、医師の引き上げ問題で夜間・休日の2次救急医療はすべて当院に搬送され、感染拡大と厚生労働省の通達に翻弄されながら、陰圧の感染病床設置が叫ばれ自治体の協力を得ながら個室2床を完成させ、他の入院患者様に感染させない危機を乗り切ったのでした。
しかし、ほっとしたのも束の間で季節型インフルエンザワクチン接種、新型コロナウイルスエンザワクチンの入荷待ちと患者様からの問い合わせが殺到し、ワクチン入荷後は限りある本数の接種順に頭を悩ませ対応したのでした。
新型コロナウイルスの騒ぎが進行する6月頃には、職員の子供が病気になるのと看護師や女性医師の勤務体制が組めない等、保育士を院内に配置し院内保育所のための病児保育サポートとして運用が開始され、女性にとって働きやすい職場づくりを確立しました。
また、8月には翌年から脳神経外科の常勤医師の派遣が出来ないと衝撃的な一報が入り、院長と旭医大や関係医療機関を繰り返し併走し体制維持に向け調整を図ったのでした。最悪の事態は回避出来たものの、今年の4月から当面週2回の外来診療のみと、遠紋地区における脳疾患の救急医療が難しくなりました。

早期に常勤体制へ戻す努力も必要ですが、医療連携を強化し救急搬送された病院から、回復期のリハビリができる後方支援病院としての確立も進めています。
一方、病院機能の充実を振り返ると、今年度は計画外の医療機器取得が出来たことです。高度なMRI装置の更新、早期がんを内視鏡で切除できる内視鏡装置、レントゲンフィルムを廃止しWeb上での診断が可能になり前回の症例比較が簡単にできる画像配信システム、旭医大や外部と遠隔画像診断が出来る読影システム等、診断に大きく貢献できる内容です。
これらの整備は遠軽町をはじめとする地元自治体に理解を得た財政支援が逼迫する病院経営の助長となり、結果的に地元の利用者へ還元できることに繋がりました。
この4月から、政権交代の公約であった診療報酬改定は若干ではあるもののアップします。しかしながら厚生労働省が想定する地域の病院とは、道内の札幌市や旭川市をイメージした大きな都市部であり、当地域での遠紋地域のセンター病院にはあまり反映されず、病院経営は依然厳しく続くものと思われまます。
最後に医師不足による道内の地方センター病院の機能が衰退化して行く中で、当院にも荒波が押し寄せて来ていることは否めませんが、医療計画の4疾病5事業と現状の診療体制を維持しつつ、透明性の高い標準的医療を提供し「最も信頼され選ばれる病院」を目指したいと思っております。
これからも、地域住民の皆様や自治体のご理解とご協力を宜しく願います。

部門だより 放射線技術科

MRI最新装置導入

放射線技術科 松浦浩司

今年2月より、当院のMRIは1・5T（テスラ）の最新の装置に更新いたしました。装置更新に伴い1ヶ月の間、MRI検査ができなくなり、地域の皆様には多大なご迷惑をお掛けした事をお詫びいたします。

新しい装置では、格段にきれいな画像が撮れるようになりました。脳梗塞の検査では、高解像度の拡散強調画像が得られ、微細な脳梗塞や、脳硬塞の経時的变化が詳細に検査できます。脳動脈瘤の検査では、小さな動脈瘤まで描出でき、さらに末梢部の血管まできれいに表示できます。心臓の検査では、造影剤を使わずに冠動脈（心臓の血管）の検査ができ、



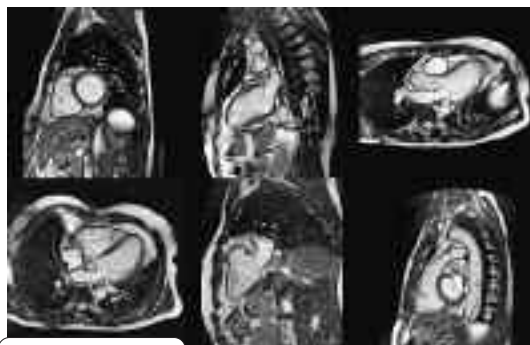
心臓の動きや血液の流れなども描出することができるようになりました。また、全身の血管も造影剤を使わずに、連続して検査することができるようなど、診断に役立つ情報をたくさん撮れるようになりました。

磁場強度が上がったことにより、よりきれいで詳細な画像を撮ることができるようになりましたが、磁場強度が上がったことで、入室時の更衣や、検査室内への金属持ち込みが今まで以上に厳格に取り扱われます。頭の検査であっても、全身の着替えをお願いしております。服や下着に付いている金具が、画像に大きく影響してきますし、服に付いている小さな砂埃の中にある砂鉄などが、装置の故障の原因となることがあります。

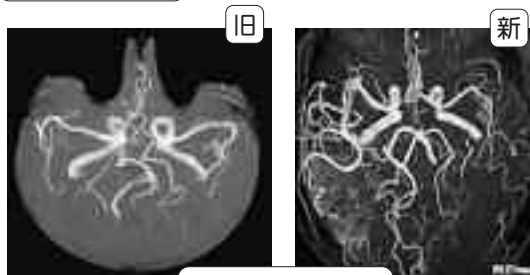
また、キャッシュカード等の磁気カードや、時計などを検査室内に持ち込むと故障してしまいますし、ペースメーカーや人工内耳の手術をされている患者様は検査することができません。検査時に説明させていただきますのでありますが、わからないこと



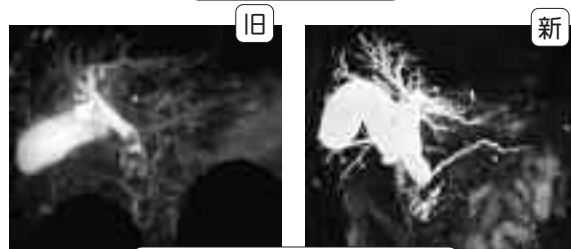
全身の血管検査



心臓の検査



脳血管の検査



胆嚢・胆管・膵管の検査

とがありましたら、遠慮せず担当の技師や看護師にお尋ね下さい。



子宮頸がんにならないために

遠軽厚生病院産婦人科

上田 寛人

子宮頸がんとは？

子宮がんは、がんができる場所によって子宮頸がんと子宮体がんに分けられます。子宮頸がんは子宮体がんは全く異なるがんで、できる場所が異なるだけでなく、原因やなりやすい年代も異なります。このうち子宮頸がんは子宮の入り口（頸部）にできるがんです。最近では20〜30歳の若い女性に急増しており、この年代の女性における子宮頸がんの発症率は全てのがんの中で第1位となつています。子宮頸がんはがんになる原因が解明されており、検診によって早期に発見することができるとめ予防が大変重要です。

子宮頸がんの原因は？

子宮頸がんはヒト・パピローマウイルス（HPV）の長期間の感染が原因で引き起こされます。しかし、HPVに感染しても子宮頸がんになるのはごくまれです。ほとんどのHPV感染は一時的で、約90%はHPVが自然消失します。しかし、約10%のHPV感染ではウイルスが消えずに

感染が長期化（持続感染）します。この場合は将来、子宮頸がんに進む可能性があります。HPV感染が長期化しても簡単にはがんにはなりません。たとえがんに行進するとしても、HPV感染から子宮頸がんになるまでは平均10年以上の長い時間がかかります。また、いきなりがんになるわけではなく、がんになるまでの間には細胞の形態が変化を起こす「前がん状態（異形成）」が長期間にわたつて見られます。この異形成も程度の軽いものから進んだものまでありますが、いずれも検査で見つけることができます。ほつておくと、がんに行進する可能性のある変化が進んだ異形成の場合は治療を行ないます。また異形成になつてからでも、細胞変化の程度が軽い場合の多くは途中でHPVが消失し、それに伴つて異形成も自然に治癒します。異形成の程度が進んだ病変の場合には、ほつておくと子宮頸がんにまで進行する場合があります。定期的な検診を受けていれば、がんに行進してから見つかることはまずありません。確実に異形成の段階で発見することができます。

子宮頸がんの症状は？

初期の子宮頸がんはほとんど自覚症状がありません。進行した子宮頸がんの症状の例として「性交時、月経時以外の出血」「茶褐色、黒褐色のおりものが増える」「月経の量が増えたり長引いたりする」「下腹部、腰が痛む」といった症状が出る場合があります。

子宮頸がんの検査法

子宮頸がん検診の検査法には細胞診とHPV検査があります。どちらの検査法も子宮頸部の細胞を採取して検査します（採取時にほとんど痛みはありません）。細胞診は従来から検診に使われていた検査で、採取した細胞を色素で染色し、「がんを疑うような異常がないかどうか」を顕微鏡で観察します。異常の程度によつて精密検査や再検査を行います。

一方、HPV検査は最近使われるようになった新しい検査法で、「子宮頸がんの原因ウイルスに感染していないかどうか」を調べる検査です。現在がんを疑う異常がなくても、将来、異形成やがんになる危険性があるかがわかります。検査の結果、精密検査の必要性があると判断された場合は組織診を行います。組織診では異常を疑う部分の組織（細胞の塊）を採取し、顕微鏡で観察することで病変の程度を判定します。

子宮頸がんのワクチンについて

先日、日本でも子宮頸がんの予防ワクチンが正式承認されました。それに伴いニュースや情報番組・雑誌などで取り上げられることが多くなりましたので簡単にご説明させていただきます。

子宮頸がん予防ワクチンは、発がん性HPVの中でも特に子宮頸がんの原因として最も多く報告されているHPV16型と18型の感染を防ぐワクチンで、海外ではすでに100カ国以上で使用されています。日本では2009年10月に承認され、2009年12月22日より一般の医療機関で接種することができるようになりました。感染を防ぐために3回のワクチン接種で、発がん性HPVの感染から長期にわたつてからだを守る事が可能です。

しかし、このワクチンは、すでに今感染しているHPVを排除したり、子宮頸部の前がん病変やがん細胞を治す効果はなく、あくまで接種後のHPV感染を防ぐものです。また全ての子宮頸がんがHPV16型、18型が原因というわけではないため、ワクチンで全ての子宮頸がんは予防できません。したがってワクチンが導入されても検診が最も有効な予防手段と言うことには代わりが無く、ワクチン接種が検診の代替になることはありません。

なお、このワクチンに含まれるウイルスには中身（遺伝子）がないので、接種しても感染することはありません。

フットケア外来

糖尿病の方は、神経障害、易感染、血行障害などを引き起こし易く、重症化すると足を切断する場合があります。

そこで、平成 21 年 7 月より、糖尿病で神経障害、足潰瘍・壊疽などのハイリスクの要因を持っている方を中心にフットケアを実施しています。①自宅での足の観察②手入れ方法③爪の切り方④魚の目・たこの処置方法などのケアを専任の看護師が実施・指導しております。

実施日 毎週水曜日 午後 1 時～（1 人 30 分程度）

場 所 内科外来

対 象 糖尿病で、足のトラブルのある方（魚の目・たこ・靴ずれなど）もしくは、今後予測される方。

内 容 足の観察、爪の手入れ方法、足の洗い方、靴の選び方
足病変がある場合は、傷の処置後に自宅での手入れ方法を一緒に考えます。



***お問い合わせ先：内科外来 担当 吉田（内線 2125）**

人間ドックオプション検査の追加について

当院の診療で心疾患を診断する際に活用している「BNP検査」が人間ドックにてオプション健診として導入されます。また、道外医療機関の健診センターではすでにオプション健診として開始されています。道内では当院が初めてとなります。

BNP検査って何？

BNPは心臓に負荷がかかっている時に分泌されるホルモンで、これを計ると心臓の元気度がわかります。とても感度のいい検査なので、大事な心臓の異常を正確に見つけることができ、早期の生活習慣改善につなげることができます。

生活習慣が心臓病につながる可能性があります

下記のように、普段の生活習慣が心臓病の要因になることがあります。これらのことが気になったら早いうちに一度かかりつけ医、または医療機関にご相談ください。

心臓病の危険因子

- 喫煙
- 運動不足
- 肥満
- ストレス
- 高血圧
- 高脂血症
- 糖尿病
- 家族に心臓病の人



ずっと健康な体でいるために早めの心臓ケアを心掛けましょう

開始時期：平成 22 年 4 月 1 日
健診料金：1,890 円（税込）

検査方法：採血検査
連絡先：健康推進課（内線 2114）

遠軽厚生病院広報誌として、「にじ」第 9 号を発刊いたしました。遠紋地域の患者様、医療関係の皆様院内情報を集約して、遠軽厚生病院の医療情報、活動についてわかりやすく、今後とも提供をしていきたいと思っております。広報誌「にじ」

についてご意見、ご要望などありましたら「にじ」編集委員会までお願いいたします。

編集委員長 西原 正幸